

# ウェイアンドアイフォーラム 第8回 レポート

# Way&I Forum

開催日時:2016年9月15日(木) 13:30~16:30

会場 :リロの会議室 田町 会議室E

参加人数:15名

進行:株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 馬橋 和弘

テーマ :「グローバル企業をめざしてのチャレンジ ~人こそすべて~&AOM報告」

ゲストスピーカー講演:株式会社公文教育研究会 取締役副社長 中江 敏 氏

AOM報告:株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 粟野 智子



## 【リロの会議室 田町】

今回の会場はリロの会議室 田町!  
駅から近く、アクセスが良いです。  
この奥が本日の会場です。



## 【オリエンテーション】

今回は初めのご参加の方も多かったため、ウェイアンドアイフォーラムの趣旨や目的からご紹介。本日の進行担当は前日まで京都でエンジニア研修を担当していた当社 馬橋。ちなみに、第1部講演の当社、粟野は昨日まで神戸でワークショップを担当していました。当社にとって、フォーラム事業は通常のワークショップ事業とはまた違い、さまざまな企業や組織の方が一同に集う有意義で刺激のある取り組みとなっています。



## ■第1部 アカデミー・オブ・マネジメント(AOM) 報告

### 「AOMの潮流から見るこれからの組織開発」

株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 粟野 智子



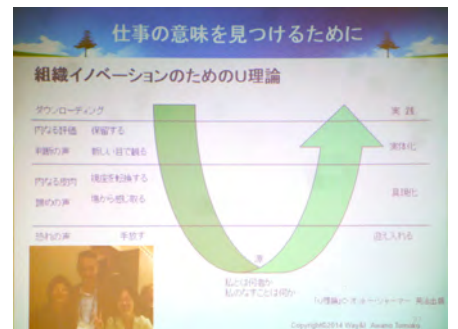
世界最大の経営学会であるアカデミー・オブ・マネジメント(AOM)。

2016年は8月5~9日にアメリカ アナハイムで行われました。ウェイアンドアイは3年前から参加しています。第1部では、粟野より、AOM2016から印象に残ったトピックスを紹介、参加者でダイアログを行いました。前半は「ヒエラルキー型からサステナビリティ型組織への変革」「仕事の意味を見つける」について。サステナビリティ型組織への変革の必然に気づきながらも、実際はそこに至ることができない葛藤が各テーブルで話されました。

後半は「組織開発」「U理論」について。U理論において、「手放す」ことはむしろ怖いもの。その点について、オットー・シャーマーに粟野が質問し「手放す状況をいかに意図的ににつくっていくか」という示唆をもらったことが語られました。



各テーブルでは、「自らが状況をつくる」「周囲が環境をつくる」など感じ方がそれぞれに異なり、興味深いダイアログでした。



## 【参加者の声】

- ・とても丁寧な報告でわかりやすかったです。
- ・AOMのご報告の中で、ヒエラルキー型からサステナビリティ型へという内容が響きました。今後の組織開発において、意識しておきたいと思います。
- ・自分がこれまでやってきたことに重ね合わせて聴き、励まされました。ありがとうございました。

## ■ブレイクタイム

第2部登壇に合わせて  
15時にご到着の中江さん。  
ご講演の前にまずはブレイクタイムで  
一息ついていただきました。  
ウェイアンドアイフォーラムではめずらしく  
集合写真をパチリ。皆、笑顔の一枚です。



ハピネスフォーラムではおなじみの  
「食べるボランティア チョコボ」。  
(代金の一部が東北の子供たちの支援に  
使われます)ウェイアンドアイフォーラムでは  
初めてご用意しました。

## ■第2部 ゲストスピーカー講演

「グローバル企業をめざしてのチャレンジ～人こそすべて～」  
株式会社 公文教育研究会 取締役副社長／国内教室管掌 中江 敏 氏

誰もが耳にしたことがある「公文式」。  
自分やご家族が通われたという方も多いのではないのでしょうか。  
今や、KUMONは、世界49の国と地域、学習者数427万人に広がっています。  
今回は、グローバル展開の成功企業で有名な 公文教育研究会 の中江 敏 副社長をお招きしました。  
実は、中江さんには、3年半前にも一度講演をしていただき、それ以来の長いお付き合いです。  
まずは、「公文式の誕生」「理念」「学習価値」「事業構造」「グローバルな広がり」の観点から  
KUMONという会社についてお話をうかがいました。



その上で、公文の歩みを振り返り、95年創業者である公文公会長、97年に公文毅社長の相次ぐご逝去が  
最大の危機であったことが語られました。その時、なぜ何のために存在するのか、何のために働くのか  
全員が考え、大変革にチャレンジし、「新生」されたのだそうです。  
現在は世界共通の経営ビジョンと中期経営方針を掲げ、さらなるチャレンジに取り組んでおられます。  
最後に、中江副社長がたどり着いたのは「社員の成長がすべて」という確信。  
「人こそすべて」の深い意味が共有されました。



### 【参加者の声】

- 公文様の理念浸透の活動の本質をうかがうことができ、大変感動しました。  
当社の活動の参考にさせていただきたいことばかりでした。
- 頭ではなく、心に響く実践的なお話、ありがとうございました。
- 理念と風土の違い、それをつなぐ仕組みをどう作るかという点は  
今まであまり考えたことがなかったポイントでした。

### 【最後に】

公文様の場合、U理論の「手放す」のプロセスは、創業者である会長と社長のご逝去により、「手放す」状況が起きた。  
そこで、社員一人ひとりがなぜ何のために存在するのか、何のために仕事をするのか(WHY)を考え抜いた結果、大変革が起こり、  
現在のグローバル企業としての公文様の発展がある。もしかすると、このWHYを社員一人ひとりが考えていくことが、「ヒエラルキー型からサステナビリティ型」への  
組織開発になるのではないかと。それが、今回のフォーラムを通じて、我々が体感できたことでした。

ご参加の皆さん、ありがとうございました！  
次回はよいよ、ハピネスフォーラムを沖縄で開催します。(11月4～5日 南城市)  
多くの皆様のご参加をお待ちしております！

写真:井上正己